

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300484		
法人名	有限会社 湯布商事		
事業所名	グループホーム花の里		
所在地	大分県由布市内町西361番地		
自己評価作成日	平成22年1月21日	評価結果市町村受理日	平成22年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472300484&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●本人の意思、ご家族の希望があれば、かかりつけ医と相談の上終末ケアに取り組んでいる ●認知症状が進行しても本人にとって環境を変えず、ご家族も希望すれば出来る限りの暮らしを続けていけるよう努力する ●スタッフの働きやすい職場、協力性、和を重視し、職員の交替がないよう努力している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・古い民家を利用した昔懐かしい建物で、庭には花木がたくさん植えられ、四季折々の花を楽しむことができる。 ・職員同士がなごやかで、それぞれの能力を活かして働いており、離職が少ない。 ・職員は利用者と同じ物を食べることの大切さを理解しており、食事時間をゆっくりととり、できるだけ箸を使う介助の配慮がされている。 ・居室の窓の手すりの一部を取り除き、避難経路を確保したり、屋外に防火用水の準備をするなど、災害時を想定した対策を積極に行っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフと一緒に考えた理念及び運営方針を日々のケアに生かしている 会議の時等には改めて確認し合っている	地域との交流を掲げた理念を、職員全員で話し合って作成し、ホールに掲示している。 管理者と職員は、会議や日々のケアの中で折に触れ、理念について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の職員もいることで、交流の幅も広がっている 食材の野菜も地域の方から仕入れたり、市報や回覧版等のやりとり、祭り等の行事の時にも参加を呼びかけている	地域の人から野菜の差し入れをもらったり、事業所の祭りやバス旅行と一緒に参加するなど、交流を深めている。公民館で地域の人に事業所の取り組みについて話す機会をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌等で事業所の内容や取り組みを知ってもらっているが、今後は地域の方にも知って得する内容を考えていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は思うように会議を持てなかった行事を通して利用者の行動や表情、スタッフのかかわりを見てもらうことが多かった	運営推進会議では、事業所の状況や活動報告、利用者の日常の様子を見てもらっている。昨年は、3ヶ月に1回の開催であった。今後の会議内容について検討中である。	報告や情報交換にとどまらず、地域との交流促進、サービスの向上に向けての率直な意見をもらえるよう会議内容を検討し、2ヶ月に1回開催できるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かがないとなかなか連絡をとることは少ない 今後の課題である	市の担当者に事業所の取り組みを説明したり、相談にのってもらっている。担当者が事業所に立ち寄ってくれることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をする行為自体まず考えない スタッフのかかわりの方を考えていくことに努めている	玄関の施錠を含め、身体拘束をしない方針である。接し方や適切な対応で、拘束しないケアの実践に取り組んでいる。全職員にマニュアルを渡して、話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がいかに悪いことかを良く知っている また、そのような事が起きないためにも職員間での話し合い、また自分自身の精神状態がどうなのかも知り、未然に解決していくようにしている		

事業者名:グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ学ぶ機会がないが、今後は施設内研修の中で講師を招いて学習していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って十分な説明をし、理解が得られるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1~2回利用者満足度等のアンケートを通して、意見や要望を聞けると同時に、訪問時気づきノート玄関に掛け気軽に書いてもらう	年2回の家族会、気付きノート、アンケートを通じて意見をもらうしくみがある。日頃から、話しやすい関係作りを心がけており、直接意見をもらうことが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は現場にいることも多く、意見や提案は出しやすい環境にある	職員が意見を出しやすい雰囲気作りができている。勤務体制など出された意見は、積極的に取り入れている。職員が働きやすいように、配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいように、またやりがいも持てるよう、環境の調整や勤務に対しての評価等も適切に行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内における研修は出来るだけ受けられるようにしている 日々の業務の中でもケアのやり方、考え方等指導し、向上につなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所グループホーム大分県連絡会に所属しており、同業者との交流、ネットワーク作りや連絡会が主催する勉強会には必ず出席し、質の向上につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が家族が困っていることを見極め、どうしたいのか等傾聴し、戸惑いや不安を和らげ、一緒になって考えていくようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの段階を良く聞き、家族が困っていることやどこまで出来るか等を知り、関わっていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当にグループホームの利用が本人にとって良いことなのか、他に支援方法はないのか等は考えてみる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護量の増えている中でも一日の中で暮らしということを考え会話をする 外に目を向ける人間として一緒に共同生活をしているということは忘れてはならない		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や便り等で写真を送ったり、暮らしの状況を知ってもらったり、お正月の外出や外泊も勧めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰った時は近隣の方に会ったり、逆にお知り合いの方がホームに面会に来たり出来るよう努めている	親戚や知人などの面会が多い。利用者が以前住んでいた地区の人達に、事業所の祭りへの参加を依頼するなど、馴染みの関係が途切れないよう工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お世話したりされたり、職員も出来る方にはお願いしたり、側にいるだけでも安心という喜びも感じている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も年賀状や、その他のお知らせ等させてもらっている またご家族やその関係者の相談も受けられる様継続は必要と思っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あくまでも本人本位 真の希望や真の必要性を重要視し、ケアの計画に生かしている	「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用し、日頃のコミュニケーションから、本人の思いや意向の把握に努めている。把握が困難になった人にも、これまでの流れの中で把握していた意向をもとに、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	どのような暮らしをしてきたのか、生活環境や生活様式を知り、入居後の支援を考えていく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の状態や持っている能力、あるいは性格等を把握して、一日の中で明るく楽しい時間が持てるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の状態に合った、無理のない且つより良い状態になるよう目標を設定し、チームで話し合い計画を立てている	全職員が参加するケア会議で、その人らしい暮らしを考えながら意見を出し合っている。家族の意見も反映しながら、3か月ごとに見直しを行っている。状況に変化のあるときは、その都度の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき、かかわり等一日を通しての生活の記録をして、見直しや計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的であるという考えを重視し、いつでも本人にとって良かれと思うことは柔軟に受け入れをしている		

事業者名:グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校や幼稚園との交流を持ち楽しんでいる 消防署には訓練の際等に実態を把握してもらっている 警察署も実態調査に来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に対しては家族との連絡を取り、症状に合わせ適切な医療機関を選んでいるし、その際は必ず主治医の紹介状をつけるようにしている	利用者や家族が希望する主治医となっている。事業所の協力医の往診も週1回ある。看護職員を中心に医療との連携を行い、家族や職員、医療機関との情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常の早期発見、早期対処に努め、看護職や介護職と問題点を共有し、適切な対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療処置が終われば、出来るだけ早く元の暮らしに戻るよう、医療機関との話も出来る関係作りをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの実践もしており、終末ケアに対しては家族やスタッフ、医療機関の協力を得て取り組んでいる	看取りの経験がある。重度化した場合について重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。状況の変化に応じ、その都度、話し合い、情報の共有を図っている。急変時の意向、同意書を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者やその人一人ひとりに起こりうる危険性を話し、どのような対応をすれば良いかを指導している また一年に一回は救急法を学び、身につけるようにしたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難先や救出方法等実践し、学んでいる 地域との協力体制も築いているが年に2度の訓練のみでなく、自主訓練も考えていかなければならない	年2回の避難訓練を行い、地域に協力を呼びかけている。最寄りの2つの消防団の協力を得ている。別棟の倉庫に、備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような暮らしをしてきたのかを良く知り、その人に合った対応をしている プライバシーの保護や誇りは損ねないように気を遣っている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けを心がけるよう、全職員で話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で何をしたいのか、何か食べたい物はないか等声かけし、本人の口から希望が出せるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅に帰って一時を過ごしたり、少し離れた町までドライブをしたりして、いつもの暮らしと違う刺激を感じてもらう		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めをしたり、カットの方法等も考えている 洋服もその人に似合う物を選ぶようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備をしたり出来る方が1~2名になっているが、座っていても出来ること等は一緒にするようにしている	献立には季節のものをふんだんに使い、利用者の希望を取り入れている。食べやすい工夫も行っている。利用者と職員が一緒に準備、調理、後片付けを行っている。同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量、水分も含め把握しており、状態に応じた栄養のバランス等考えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔のケアを支援している		

事業者名:グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表を作成し、なるべくトイレでの排泄が出来るよう支援している	排泄チェックリストを利用し、羞恥心に配慮し、個別にトイレ誘導を行っている。足を鍛えるなど、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物や水分摂取、運動をすることで便秘の予防を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の規定はあるが、希望や必要性に応じて柔軟に対応している	一人ひとりの希望に添って、最低でも週に2日以上、入浴できるよう支援している。入浴できないときは、足浴、手浴を行い、状況により清拭も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や状態により、休息、午睡ができるようにしている また環境調整や気分良く眠りにつけるよう考えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾患と内服薬が分かるようにしている 介護職員にも作用、副作用の説明をしており、症状の変化を記録するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯物をたたんだり、利用者同士の会話や助け合い等大切にしている また趣味やレクリエーション、俳句会にも参加し、気分転換をはかっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を言える方も少なくなっているが、親戚の家に行ったり、地域の方と一緒に家族と共に参加したり、介護者サイドからの呼びかけをしている	花見ドライブや外食など全員の外出支援、個別での外出支援も行っている。日常的に庭先に出て、花を眺めたり、外の空気に触れている。	

事業者名:グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さはほとんどの方が理解しているが、所持して使えることはだんだんと出来なくなってきている 9人中2名の方は可能であると思う 最近入居の方でこれからのところである		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、身近な人からかかってきた時は会話ができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を植えたり、飾り物でも季節感を出している テレビの前や職員の声のトーンにも注意を払っている 食堂も少し狭いが、食器の音や生活の音があり、落ち着ける場所と思っている	昔ながらの家具を配置し、季節の花や古い伎楽面や書画を飾り、落ち着いた雰囲気をつくっている。廊下や居間には、多くの本や手作りの作品、雛人形など、利用者の好みものを配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中のソファや廊下にもソファを置いて、おしゃべり出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いたり、好きな飾り物を壁にかけたりして、孫の成長やプレゼントを通して会話ができる	田畑や山々が見える居室の窓は、大きく開閉することができる。写真やカレンダーが飾られ、利用者が見やすい位置に、時計がかけられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	0		